

《事務事業の手段と活動指標》【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H23実績	H24実績	H25実績	H26計画
① 全国大会等出場激励金交付事業	文化的な全国大会等への出場者へ激励金を交付する。	大会激励金交付件数	件	2	2	0	2
② 文化関係団体補助事業	伝統文化団体に補助金を交付し文化活動を支援する。	補助金交付団体数	団体	4	5	4	4
③ 文化振興景観整備基金積立事業	文化財保護に活用する基金に利息分を積み立てる。	積立残高	万円	5,430	5,434	5,438	5,440
④ 市民文化祭開催支援事業	文化協会の主催を共催により支援する。	催物開催件数	件	16	16	17	17
⑤ 文化振興基本計画策定業務	文化振興の基本事柄を整理した基本計画を策定する。	計画策定委員会議回数	回			3	2

《事務事業の成果》【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H23目標	H24目標	H25目標	H26目標
			H23実績	H24実績	H25実績	
1 文化協会所属会員数	4月1日現在の会員数	人	1,750	1,500	1,500	1,178
			1,712	1,427	1,178	
2 市民文化祭観覧者数	市民文化祭に訪れた観覧者数	人	1,226	1,192	1,300	1,300
			1,226	1,192	1,040	

《事務事業の評価》

評価項目	評価の視点	評価	評価の説明
妥当性 (判定) A	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	民間主導ではあるが、行政として支援をしなければ、文化振興への市民参画を損なう恐れがある。
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、役割が薄れていないか。	
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。	
有効性 (判定) C	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。	
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。	
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。	
効率性 (判定) A	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	支部制度を廃止したことで一時的に脱会した団体もあったが、26年度になり再入会した団体もあり、従来どおりの活発な組織になりつつあるものの、これまでと同様に協会活動の充実や情報発信に努め、会員数を増やすことで成果が向上する。
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。	
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。	
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。	
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。	

《今後の方向性と改善》

今後の方向性【31】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小を検討 <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討 <input type="checkbox"/> 細事業の効率化【 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 民間活用 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	市文化協会においては加入団体数や会員数の減少もあったが、入会団体数や会員数も増加傾向にあることから現状のまま継続する。
昨年からの見直し・改善状況【32】	これまでは市民文化祭の会場借上料を市が直接負担していたが、業務の効率化のために、これを玉名市文化協会の補助金に合算し交付することとした。また文化協会の規約の一部改正を行い協会会員の意識向上を図った。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見【33】	民間団体、各種機関等と連携を強固に持ちながら、文化を深化させるための援助は不可欠である。基金の用途については今後検討が必要である。	評価責任者 中山 富雄
------------------	---	----------------